

## 令和4年度 第2回高知県スポーツ振興県民会議 議事要旨

日時：令和4年10月31日（月）13：30～15：30

場所：高知県人権啓発センター 6階ホール

出席：委員21人中19名が出席（代理出席2名、委任状1名を含む）

議事：

- (1) 令和4年度スポーツ施策の進捗状況について
- (2) 第3期高知県スポーツ推進計画について
- (3) 部活動の地域移行について

### 議事

#### (1) 令和4年度スポーツ施策の進捗状況について

##### (前田委員)

○地域スポーツ推進部会での部会員の主な意見については参考資料1に意見がまとめられている。スポーツ参加の拡大においては、スポーツ指導者の資質の部分や、指導者の暴言暴力であったり、まだまだスポーツをしていくうえでの問題がある。部活動の地域移行でも子ども達が主語になっていないケースがある。そこに関わる指導者を含めた人々の資質の向上が重要。ひもづくところで、子ども達が安全/安心にスポーツができる環境が大事。地域での課題は様々であるので指導者の確保や中山間でのリモート活用も意見があった。スポーツツーリズムの部分でも国内での「教育旅行」で人を呼び込むことができるのではという意見もあった。特に、指導者と子どものスポーツ環境の充実させることが大人の役割になってくる。

##### (矢野委員)

○競技力向上を所掌しています。参考資料1のP4をお願いします。競技力が向上してきている傾向にあることを感じている。SSCの活用についても利用増ではあるが、まだ団体の中にはスポーツ医科学をどのように利用したらよいか分からないケースがある。レスリング等の成功事例を戦略として参考にすることも進めたい。県外にいる県出身選手についても、県へ帰ってこれるように選手の受け皿も必要と考えている。他団体との連携を継続していくことが大事。女性のスポーツ参加や女性指導者の育成支援が必要。例えば、練習中や試合中に選手・役員の子どもの預かる仕組み。部活動の地域移行を一つの契機として、運動及び文化部活動をプラスに受け取って進めていくことが重要。障害者スポーツを健常者も同じように参加できるようにし、強化も図っていく。子ども達の体力は都会の子どもたちが高く、田舎の子どもたちが低くなっている。子どもたちを取り囲むスポーツ環境に差がある。放課後デイサービスにスポーツ団体が入る案、スポーツ障害の予防、スポーツイベントを人が見えるところ、集まる場所で行うことが大事等の意見があった。

#### (2) 第3期スポーツ推進計画について

##### (尾下委員)

○資料3の右端の下から2つ目の、『県内スポーツを企業が支援する体制づくり』について、高等学校や大学で活躍した選手、特に個人種目について県内での活躍の場が少ないと感じている。以前、くろしお通信が陸上部をもっているときに県代表として駅伝で活躍する選手をみて胸を躍った記憶があります。それぞ

れの地域や競技団体での育成が実を結び、国内外で活躍する選手が現れ、その選手が県内を拠点にして活動し続けることで本県のスポーツ振興につながる。また、ジュニア選手の目標にもなるし、その後の指導者としての活躍も期待できるのではないかと考えている。このことは、雇用を伴うことであり、アスリートの生活にも直結することなので簡単な話ではないが、これまで以上に、県内の行政・企業・団体がアスリートを雇用し練習環境の整備を行って欲しいと思う。スポーツ振興財団は、県から指定管理者制度で各スポーツ施設を管理・運営している。練習環境は申し分ないが、雇用する際の財源や仕事とのマッチングが課題だと考えている。

#### (事務局)

- ご意見をしっかりと伺ったうえで体制づくりを進めたいと考えている。

#### (竹島委員)

- 春の高知県の高校バレー大会があって、ベスト4に残った学校は全部私学で、こういった状況が10年程度続いている。競技力向上部会の主な意見にも県立学校へのスポーツ推薦の導入により有選手の入学うんぬんという意見があり、そうしたことも検討して欲しい。徳島県の場合は、県立学校のどこどこへ行けばよい指導者がおり、一局集中ではないが、高知県の地形を考えた場合、どうしても郡部の方で中学校でプレーしていて、強い高校でプレーしたいとなると高知市内にこないといけない。金銭面を考えた場合、東部・西部・中部それぞれで中高一貫校を利用してスポーツの拠点校をつくり強化をして欲しい。同じ県内で切磋琢磨できるような環境づくりが必要。県外へ遠征するのは保護者側からすると金銭面での負担も大きいので、高知県内で強化のチームができれば保護者の金銭面の負担も軽減されると考える。
- 教員と部活動のマッチングについて、バレーボールでは、郡部地域では3～4人の部員での活動を指導されているところもある。20～30代の教員の方の中には、もっと人数の多いところで指導したいと希望されている方もいる。こうした指導意欲のある教員の方を指導者としてもっと育成して欲しい。そうすることで、競技力の向上につながり、若者がスポーツを通じて大学へ進学し、企業等へ就職し、また高知県へ戻ってくるというよい循環の道筋を立てていただければと思う。

#### (教育委員会)

- 県立学校では魅力化として、四万十高校、嶺北、土佐町が協力的に地域でカヌー等をやっていて、町で寮を整備していただきながら県外からの受け入れも行っており、入試でも県外からの受け入れ対応を行っている。高知市内の県立学校については入試担当が高等学校課になるため、詳細な回答はできないが、こうした意見があったことを情報共有する
- 私立学校と公立学校では「異動」というものが大きく異なってくる。教員は部活動での指導もあるが、あくまで教科の指導がメインになるので、そこについてはご理解をいただきたい。その中で、人事の中で限られた人材を子ども達の学習のために活用できるかについては人事課が担当しているのでこうした意見があったことを情報共有する。

#### (濱田委員)

- 春野運動公園内に所在している高知県スポーツ科学センター（以下「SSC」とする。）が春野だけでなく、選手が活動する場所に出向いて測定を行う『出張』での測定という話があった。昨日、土佐女子中学高校にSSCの方々が出張で来て測定をしていた。かなりの測定器具を持参して、20数名の卓球部全員を

測定した。普段の練習を見ていると大体この生徒が運動能力が高そうだとすることは定性的には分かる。測定終了後、結果を監督に確認したところ、能力が一番高かったのは中学3年生で県で優勝している生徒だった。他の部員も含めて全員を一斉に測定することが今までなかったので、定性的にみて運動能力が高いと思われる生徒の数値的な裏付けのある結果を確認することができた。これはとてもよいことだと思っている。全員で春野総合運動公園内にあるSSCまで行くのは大変であるが、普段の練習場所へ出張で来て測定をしてくれることは、測定を受ける側からすると、利便性がよく、とても成果があったと感じている。

#### (事務局)

- まだまだ出張でのサポートは限界があって不十分ではあるが、指導現場への訪問数を増やしていきたい。また、リモートでのサポートも活用しながら、競技者・指導者の負担を軽減させ、活用できるようにしたい。

#### (刈谷委員)

○子どもの環境把握について、スポーツ少年団の団数と子ども、サークルや部活は全国より低いと表記されているが、スポーツ少年団と民間のクラブ等についてや、クロスしている部分もある、子どものスポーツ環境を把握するという意味では高知県の実態を反映されていないように思う。もう少し細かなデータや資料等はあるでしょうか。もし無ければ早急に手を付けて欲しい。民間活力を導入しなければ地域移行はなしえない。このため、子どものスポーツ環境の実態把握をしなければ見誤るのではないかと思っている。

#### (事務局)

- クラブチームの状況を詳細に把握していないので、詳細な状況把握を早急に行いたい。

#### (刈谷委員)

○文化部の地域移行も控えているので、学校教育の中の文化部と運動部、民間クラブ、少年団を一体的な構造を把握しないと子ども達の実態が浮かびにくい。後手に回るのではなく、先に情報を入手しておくこと、そして経年的にデータを収集することが重要と考える

#### (廣瀬委員)

- 学校の中では、部活動は技術力の向上だけでなく、道徳心やマナー等を守ることを身につけていくうえで、教育と密接に関係しているのでどうしても切り離せないと考えている。県立高校については部活には外部指導員の方をかなりいれていただき、学校の教員と指導員と一緒に指導をしている。ただし、競技の専門指導者がいる学校にはあまり配置ができなくて、専門指導者がいない学校に配置をすることになっている。ただ、実際のところ専門指導者がいる学校でも、教員の仕事は様々あり、部活動を見に行けないので、そうした部活動に外部指導員を配置していただかないと、競技力の向上には繋がりにくいように思う。また、生徒の部活動状況を見ていないと、生徒の部活動を通じた様々な成長ができにくいことがあるので、外部指導員の配置を増やして欲しいと色々な学校が意見として持っていると思う。
- 外部指導員の方の資質としても、技術力があるというだけでなく、学校と密接に連携をとりながら、地域の意向を踏まえることができる方が望ましい。その上で、地域が一丸となって子ども達を育てていくようなシステムを構築してもらいたい。外部指導員が単に技術だけを教えても、学校のことが分かっていない

と、人間の成長には繋がらない。それを踏まえたくて県としても人材育成をして欲しい。中学校の方も既にそうした取組みを行っていると思いますので、プラス面とマイナス面を考慮しながら、高校の方にも引き継いでもらいたい。

- 先程、ご意見のあった公立学校へのスポーツ推薦の導入については、高知県の人口が減少する中で、公立高校の定員も十分充足しないなかで、公立高校も特質を生かしながらできる限りのことを行っている状況。制度としてそうしたことができれば、公立学校も力を尽くしていくので、様々なご検討をお願いしたい。

### (事務局)

●部活動の地域移行については、まだまだ流動的なところがあり、また様々な課題や意見があり、別の会議で検討していくこととしている。指導者の確保と資質向上は重要と考えている。部活動の地域移行は学校の部活動をどうするかということと、地域の子もたちのスポーツ活動環境をどのように捉えていくのかということもあるので、県教育委員会、各市町村とも定期的に情報共有・意見交換をしながら地域の実情に応じた対応を行う。

### (武市委員)

○2040対策、そこには少子高齢化の問題がある中で、生涯を通じてスポーツを楽しんで行く過程の中で競技力向上があると思う。総合型地域スポーツクラブが26のクラブがある中で経営が一定程度安定しているのは指定管理者となっているクラブ。指定管理者制度は大変なところがある、地域住民の福祉の増進のサービス提供をしながら総合クラブの会員を増やしていくことをしている。公共の施設の在り方も是非考えていただきながら、多様なスポーツに対してどのように公共施設をマッチングして使っていけばよいか、各スポーツ団体と住民の財政的な問題、それがしっかりスポーツにつながり健康に繋がる。最終的にスポーツを通じた元気な町づくりを高知県として考える必要がある。今後、公共施設の使い方も検討してほしい

○先日、総合型スポーツクラブとして禰原町で約20名の女性とウォーキングイベントを行った。ガイドの方がスマートウォッチを持ち、住民の健康管理の一環としてデータをとってエビデンスを蓄積していた。自分たちが行っていることが「良い影響」なのか「悪い影響」なのか。総合型スポーツクラブが地域にとってどのような影響を与えているのか。「悪い影響」なら方向が間違っている。総合型地域スポーツクラブが地域住民に対して「良い影響」を与えるよう認識していかなければならない。

○質問になるが、資料の中で「スポーツの安全・安心の確保」の中の、「スポーツ団体における適切なガバナンス対応の促進」について、これをどのような形で促進していくのか。総合型地域スポーツクラブは本年度から登録認証制度の部分をクリアしないと登録されないということがある。本日、登録の一覧表が出て、高知県の登録数は全国で下から数えた方が早いという結果であった。そこに影響をしっかりと落としていくには、指導内容やどういう人材を確保し、どのようにその地域で生かしていくのかを考えていく必要がある。自分が大学へ入学し水泳部に入った時の感想として、他県から来た選手はしっかり、水をおさえてゆったりと泳いでいるのに、高知県記録より速い選手が練習中からたくさんいた。どういう指導者が子どもたちに、どういう影響を与えて、こういう風になって欲しいという影響を与えるか。こういうことを指導者講習や人材育成に生かしていき、スポーツが勝利の結果だけでなく、社会へ出てスポーツ選手が、指導者が替わるとできないではなく、上司が替わるとできないではなく、指導者がどんな人でも自分がどういう風にその影響に対して方向性を持たせるのかというスポーツ環境にできる計画を自分でも考えてみたい。

### (事務局)

- 公共施設の在り方については市町村との連携が非常に重要と考えており、しっかりと意見交換の場を設定して、公共施設の在り方、街づくりの後押しを考えていきたい。
- ガバナンスについては、国が提示している団体に対するガバナンスコード（中央競技団体用と一般団体用）があって、その中で競技団体などとして適切な対応の項目について、具体的な取組をどのようにすすめているのかということ、すべてを一気にはできないと思うが、競技団体や少年団について支援していく活動を進めていきたい。

### (常行委員)

- 「女性」というキーワードが出ましたのでその点について。一度、女性のスポーツの推進ということで、プロジェクトを組んで取り組んだことがあったが、女性のスポーツ参加を促進するために、促進要因をプッシュするというよりは、高知県の場合、女性が正社員でフルタイムで多くの方が働いており、管理職で働いている方も多い県だと思うので、仕事もフルに頑張り、家に帰れば家事や育児等、女性には負担が多い現状がある。このため、スポーツをする上での阻害要因をいかに適正に時流に合わせ、ワークライフバランスの中で実現させるかが重要と思う。ただ、実際に高知でスポーツを熱心に行う女性の方もおり、男性の考え方も時代と共に徐々に変化しており、男性に育児を任せて朝6時からランニングを行い、会社に08:30には入って仕事をし、帰宅後、ヨガに参加するという方も20歳代、30歳代にはいますので、そういった女性が健康であること、女性がスポーツを行うこと、運動を楽しむことが家族にとって、高知県にとって良いことであることをプロモーションすることを打ち立てることも必要と思う。高知県の持つサイトであるスポーツNAVIで情報提供だけでなく、スポーツをもっとしたいなという楽しいサイトにもっともっとできると思うので、期待をしている。

### (事務局)

- 参考にして、この部分についても具体的に前へ進めていきたい。

### (寺村委員)

- 質問になりますが、指導者の育成、担い手の育成について、「担い手」とはどういう人達のことをさすのか。ボランティアという言葉も出てくるので、ここでの「担い手」というのが、雇われて行く人なのかどうかによって責任も変わってくると思うので伺いたい。

### (事務局)

- スポーツ指導者の育成についてはしっかりと取り組む。スポーツ推進員は地域によって人数は異なるが、以前から地域を支えている重要な存在。それ以外にボランティアは無償・有償で地域のイベントに参画してもらえる人達のことと幅広く捉えている。地元の方々、身近な地域でスポーツを支える方々に五経路y悔いただくことは重要と考えている。また、単発になるかもしれないが、地域の活動に協力してもらえる若者・大学生等についても地域でのスポーツ振興の人材不足の状況を改善するうえで、地域と若者をつないでいくことも必要と考えている。「担い手」という言葉の中には指導者から協力者まで幅広く捉えており、より具体的に効果的な対策をそれぞれに打っていく必要があると考えている。

### (井奥委員)

○競技力向上の中で、障害者スポーツにおける有望選手の発掘もあり、一般の方の障害者スポーツ自体への関心の高まりがある中で、この流れを生かして、社会福祉協議会としても積極的に取り組んでいきたい。スポーツ参加の拡大のところで、リモート機器の活用とSSCの活用がある。日本人の30%以上がスポーツで道路を使用する傾向にあるようである。一方で、欧米の方は運動に施設を使う傾向が強いようである。リモートの活用という点では、新型コロナウイルスの影響もあるが、大人が道路ではなく施設を使うスポーツが促進されるよう積極的にリモートを活用してほしい。SSCの測定機器をアスリートを目指す方々に経験をしてもらい、将来、指導者として活動される際にスポーツ医科学の活用をしてもらいたいと思う。

### (事務局)

- 選手の発掘・育成については、まずできるところから着手したい。当面、競技種目は限定的かもしれないが、前に進めていきたい。
- リモートについては、新型コロナウイルス感染拡大の中でも、リモート機器を使用した取組の成功事例もあることから、そうした活用事例を生かしながら施設でのリモートによるスポーツ活動の取組を広げることができればと考えている。

### (生島委員)

- 「スポーツサミット」は、スポーツで高知を元気にしようとするため、高校生・大学生によるスポーツに対する忌憚のない想いや意見を披露するプラットフォームという位置付けと考えている。どういう風に発展させるかについては県とも協議して今後検討したい。
- 高知学園大学は幼児保育学科を有している。幼児保育学科では「遊び」を通じてからだを動かすことの大切さを教えている。教職課程にいる学生に、スポーツを絡ませながら教えられるか、また、そこで学んだ学生が教育の現場に行った時に、子ども達に教えることが何かできないかを考えている。こうしたことを通じて、小学生になるよりも前の幼児の段階からうまく連携できる取組をしたいと考えている。例えば、子どもの「遊び」に着眼すると、土日に公園でボランティアの方が鉄棒の「逆上がり」や「けんけん」を教えることがあってもおもしろいのではないかと考えている。

### (事務局)

- 子供のスポーツ環境づくりや子どものスポーツ機会の拡大のためのマッチングプログラムで若者の参加と就学前の子ども達に対するアプローチについても相談させてもらいながら検討したい。

### (藤原委員)

○地域の中で子どもたちがスポーツに親しんで、スポーツへのこどもの入口の幅をいかに広げるかが重要。少子高齢化の中で、子どもから高齢者まで、地域住民を巻き込んで幅広く参加できるスポーツイベントを開催することで、子ども達がスポーツの楽しさを感じることができ、高齢者の方々の生きがいや健康増進にも繋がると思う。

### (事務局)

- スポーツ推進委員により地域の運動会の見直しを行い、多世代が交流できる場を地域地域で企画してい

ただくことを進めたい。

#### (大坪委員)

○競技力向上でSSCでサポートしている。指導者が栄養指導と一緒に来ているところは成績が上がっている傾向にあるので、指導者も一緒に来て学んで欲しい。障害者に気軽に安心してスポーツができる環境や支援する体制が大事だと思うが、地域のニーズに対応するのか、個人のニーズに応えるかでは、障害によってずいぶん違うと思う。県外へ遠征に行こうと思ったら車に乗れない人が多いから指導者のマンパワーが必要であるが、その方が行けなかったら選手も行けない。あるいは障害者スポーツセンターのバスの時間が変わって1時間半待たないと家に帰れない等を見ていると、個人のニーズを調べてあげることも必要ではないかと思う。実際に障害者のニーズや地域のニーズが出てきているのかを知りたいと思った。

#### (事務局)

●栄養の指導者の研修・資質向上はご協力いただきながらさらに進めたい。障害者のある方のスポーツの取組のニーズについては、詳細なこうしたニーズが挙がっていることを取りまとめていませんので、しっかり把握したうえで、全体的に支援する部分と個別に支援する部分の在り方についてもご意見をいただきながら、ニーズも調べた上で今後の対応を考えたい。

#### (小林委員)

○四国銀行は現在マッチングでうけいれているかどうかで申すと、当行には野球部があり、県内外を問わず、企業の野球チームで活動を行いたいという学生がいれば受け入れを行っている。高知県出身者の中で優秀な成績を収めているスポーツ選手の県内での受け皿がないというのは現実だと思う。当行としても自身の魅力を高めないといけない。また、お取引様企業に受け入れのお考えを啓蒙していくことが重要と感じた。

○計画の柱の中で、競技力向上があつてその施策が展開されていくと思う。ただ、前提としては「スポーツで一番になればそれでよい」というような人間性や物の考え方については、小さな時から人間としてあるべき姿を教えていくことが重要だと思う。企業が人を受け入れるうえでも大きなポイントになってくるので、そこは外さないようにしてもらいたい。

#### (事務局)

●指導者資質向上の部分については、スポーツを楽しむためにも重要と考える。

#### (戸梶委員)

○スポーツを通じた健康増進施策の一つとして健康パスポートアプリを活用した健康増進の取組がある。アプリを起点としてデータを利活用し利用者のニーズや行動を把握・推測し、より具体的な施策につなげて欲しい。

#### (事務局)

●健康部局と連携して進めていきたい。

### (3) 部活動の地域移行について

#### (刈谷委員)

○状況に応じて流れを検討していくこともあるが、仮説を設定して取り組まないとと他県に3～5年ぐらいの差で置いていかれる。中身を本当に吟味できないと都市部だけが進むことになることは目に見えている。だからこそ、地方が頑張らないといけないと考える。指導者の拠点が欲しい等の意見もあるが、全ての種目が50年間かけて言い続けているがそれは無理だと考える。その限界をドラスティックに変えるために、部活動の地域移行を一材料として前向きに捉える意識が必要。スポーツを楽しむということでスポーツ選手になることはよいことだと思う。ただ、スポーツ選手のセカンドキャリアを保証し、企業マッチングだけでなく、その選手が指導者として活躍する県内での仕組みをどのようにつくるのかのシュミレーションをどこかで誰かがしておく必要がある。是非、新しいドラスティックな考えを構築して関係者がスクラムを組んで欲しいと期待している。また、この議論を整理し議論軸を明確にしてほしいと考えている。

#### (事務局)

●頂いたご意見を検討会議の場で検討したい。

#### (濱田知事)

○委員の方々にはご多忙のところお時間をいただき、様々な立場からご意見を頂きまして、スポーツの参加の拡大、競技力の向上、活力ある県づくり、部活動の地域移行についても触れていただき、ありがとうございました。いただいたご意見を踏まえ、庁内で検討するものは検討し、本日提示をさせていただきました第3期高知県スポーツ推進計画の具体的な施策に反映させていただき、あらためて次の機会に報告をさせていただきます。また、お気づきの点があれば事務局の方にご意見をいただければと思います。ありがとうございました。

以上